月刊 オリーブ
2023 5
Vol.96
― 真の更生を目指して ―

新年度～信頼

信頼とは「ある人や物に高い評価を置き、仕事や要望を任せられると言う気持ちを抱くこと」と言った意味の言葉です。

新年度に当たり、オリーブの家が10周年に向けた取り組みの中で、この「信頼」が主要テーマになる。知識ではなく体験的に理解出来た事が大きな要因です。

年度末前の2か月程の出来事を通して、オリーブの家の現場は、若いスタッフの離職、長年アルバイトとしてオリーブの家の仕事を支えてきた人がパートスタッフへの道を歩み始めた事も「信頼」による大きな変化です。

学校や職場、家族など様々なシーンにおいて大切なのがこの信頼関係（人間関係）です。

信頼関係が築けていれば、人生も仕事も円滑に進むでしょう。逆に信頼関係が築かれていないと、関係がギクシャクし、トラブルの原因になってしまいます。「夫婦喧嘩は犬も食わぬ」といった言葉が、ある反面、熟年離婚が多いのも事実。これは真の信頼関係が築けていないのが原因だと思います。何故なら、信頼できる相手と出来ない相手では同じ言動でも受け取り方が全く違ってくるからです。

過去10年間は猪突猛進で突き進んでまいりました。素晴らしいミニストリーですねと、ご支援くださる方々からは感謝や励ましの言葉を多く頂きました。多少なりとも過去の実績や成果を評価して下さった、この10年間だったと思います。

今後も「神のお許しのある限り」オリーブの家で奉仕したいと思いますが、５年、10年、たとえ数年であっても任せる事ができるか？ 人にその思いを持っていただく事が、「神のお許しのある期間」であると私は思っています。

自分では格別に意識しているつもりはないのですが「青木さんは自己肯定感の高い人ですね」とよく言われます。

【自己肯定感】自分を自分であると認める感覚でもあり、自分の短所や弱み、悪いところをも含めてありのままの自分を肯定する力。他人と比較するのではなく「自分はこれでいいのだ」とありのままの自分を受け入れて認めてきました。これは子供の頃の少年院での生活、受刑生活でも同様です。出所後の教会生活、シンガポールでの留学生活、オリーブの家の立ち上げから現在に至るまでも変っていません。しかし、この自己肯定感が強すぎて、気を付けなければならないのは、他人の意見を顧みない「独りよがり」になってしまう要因にもなりかねないということです。

聖書は教えています。

［人の心の高慢は破滅に先立ち、謙遜は栄誉に先立つ。］　箴言　18章12節

［ですから、あなたがたは神に選ばれた者、聖なる者、愛されている者として、深い慈愛の心、親切、謙遜、柔和、寛容を着なさい。］　コロサイ人への手紙　3章12節

アンガーマネージメントという言葉を最近知りました。私の弱点であるところの「怒り」の感情をコントロールすることです。誰にでも怒りの感情はあります。聖書にもイエス様が怒りをあらわにした記事もあります。しかし、イエス様の視点は神の視点です。この世の生は「人格の完成」にあると中川健一先生に教えて頂きました。イエス様の前に立つ時、申し開きができる「私」になって、誰からも真の信頼を得れるオリーブの家であり続けたいと願います。

新年度もオリーブの家をご支援、お祈りに覚えていただければ幸いです。宜しくお願い申し上げます。

オリーブの家
施設長
青木康正

ファミリーの声

塀の中からの便り

主の御名を讃美致します。

少しずつ暖かくなっています。お元気でしょうか。

日々色々な事がありますが、ほぼ順調な生活を送れています。青木さんのアドバイスがあってのことで感謝します。そのアドバイスは何よりも神様からの贈り物です。

ペン習字も根気強くやっています。なかなか思った様な字が書けませんが何事も成果を得るには忍耐と根気そして継続が必要です。一朝一夕には何事も得られません。

桜が綺麗ですね。28日には観桜会があります。ありがたくどら焼きをいただきます。物価が高騰している中でどら焼きを頂ける事はこの上ない喜びです。書道にも励んでいます。

先日「神愛恵絆」（神の愛、恵は絆）を書き上げました。是非青木さんに見て頂きたくて贈ることにしました。神様からの愛、恵は神様と私たちの間の恵み絆です。主イエス・キリストがそうした人生を私たちに教え残されました。キリストとの絆はまさにキリストからの愛恵みであり、その愛、恵みに生きていくことにより、一層より絆が深まります。信仰の相乗効果ですね。そう思いこの書を書き上げました。お身体にご自愛ください。時間の都合がありましたら面会も楽しみにしています。いつも祈っています。

（H・Hさん）

主の御名を賛美します。梅の花が咲き盛る頃ながら、いまだ寒気残る昨今、お見舞い申しあげます。変わらぬご厚情にて毎月のお便りとご芳志を与え続けてくださいまして、ありがとうございます。

施設長としても、オリーブの家を束ね力尽くしておられることが月刊オリーブの誌面からも毎号感じられます。巻末の理事長手記、オリーブの家で見つけた笑顔、微笑ましい内容を楽しませていただいています。中川健一先生のメッセージにある「長寿は、人生のゴールでは無い」と、「生かされている間に悔い改めの実を結ぶことが、人生のゴールである」の教えを私なりに考えました。無辜の人を亡きものとした身なのに、こうして生かされ細々ながらも肉親との縁を続けられている事は稀なことなのに、オリーブの家から支援を与え続けてもらえている幸こそ、悔い改めの実を結ばせていただく得難い好機ではないかと感じています。月刊ハーベスト・タイムの記事だけでも、ハーベスト・タイム・ミニストリーズの息吹を強く感じられ、拙い学びの歩みを扶けてもらっております。身の程を知り、何も求めることなく、ひたすら悔い改める道を黙々と続けさせていただけるだけでも幸いなことなんだと思っております。今の動きに動揺することなく、努めるべきことと青木さんから、昔、身近に聞いたことの断片を想い出しています。ファミリーの皆様に平安を。

（K・Tさん）

お二人とも長い刑期を務めながらも常に「自分自身」を追求されている方です。社会も同様ですが、人間関係でも大変ご苦労されています。「主」にあって平安が与えられますよう祈ります。

青木康正

刑務所の中で「月刊オリーブ」を読んでおられる皆さんへ

オリーブの家では、手紙ミニストリーズ「ノアの箱舟」活動を行っています。出所後、自立準備ホーム「オリーブの家」で学び真剣に社会復帰をしたいと考えておられる方、是非、文通を始めませんか？お待ちしております。

支援者からの寄稿

被害者側と加害者側
― 癒し、赦し、和解

今井　洋子

16・「義人はいない。ひとりもいない」

『弟を殺した彼と、僕。』出版予定の版元の編集長と、編集協力者と私の3人で原田正治さんを訪れたのは、2004年の大型連休の頃でした。すべての原稿を原田さんの前で音読し、細かく内容を確認ました。原稿を修正し、帯や装丁をお願いする方々も決まり、もう、私にすべきことはなく、本が完成することを待つだけの時期になりました。

もはや書くために聖書を知る必要はなくなっていましたが、私は「マルコ」の学びを継続していました。すべての人が罪びとであり、その個々人の罪の身代わりでイエスが十字架で神の刑罰を受けてくださったという教理。その教理にどこかホッとする自分がいました。私だけが悪い人間ではないという安堵です。

私は小学生の頃、廊下を走るとか変なことをする男の子を糾弾したり、できないことを悪く言ったり、人の隠したい面を言いふらしたりする女の子でした。親も先生も私に注意をすることがありませんでしたが、私自身は、それを善いことではないけれど、してしまう自分を知っていました。表面的には問題のない人生を歩んでいるようで、こんなままでいつまでも大丈夫なはずがない、いつかしっぺ返しを食らうに違いない、と、どこかで恐れたまま、三十代も終わりに近づいていたのです。また、受験に際して、私が合格したゆえに、不合格になってしまった人に対して、負い目を感じているところもありました。不正なことをしたわけではありませんが、自分が「正しい」何かをすることで、自分では、したいと思わなくても、他人を傷つけてしまう力が自分にあることを感じて心の奥で途方に暮れていたのです。

『弟を殺した彼と、僕。』を書くときに見聞きした多くの本や資料から、他者を尊重しない、自分のことしか考えない、という、心の深いところの動機や根っこは、死刑になるような罪を犯した人々と、私の心の奥底は同じだ、と私は思ってきました。刑法に触れる殺人や傷害と、同級生をいじめたり、ないがしろにすることは同列ではない、と言う人もいるでしょう。ですが同列か死刑囚の方が赦され難いなら、かえって死刑囚が赦されるならば、私も赦される、と奇妙なことに私は思ったのです。

私は、重い荷物をガラガラひきずって誰にもそれを見られないように歩いている人のように自分を思っていました。「マルコ」の学びの時に、その話をしたところ「そのガラガラをイエス様に渡して、イエス様を信じませんか？」と尋ねられました。「まんまと、信者にさせられるな」という思いも頭をかすめましたが、重荷を本当にイエスの十字架で処理できるのなら信じたいと思い、思い切って「信じます」と言いました。

今井　洋子
いまい・ようこ

1966年金沢市生まれ。東京大学文学部卒。信託銀行勤務、専業主婦を経て、子どもを教える仕事をしながら、ノンフィクションを書いている。2004年受洗。2017年ハーベスト聖書塾修了。2018年よりNPO法人「オリーブの家」理事。
前川ヨウの名前で、原田正治著『弟を殺した彼と、僕。』（2004年、ポプラ社）を構成者として執筆。雑誌「東京人」2011年3月号に「二・二六事件1被害者の娘と加害者の弟の物語」、2016年8、9、10月号に「二・二六事件ある青年将校の弟」を寄稿。

オリーブの家で見つけた笑顔

「4月13日」オリーブの家で火災発生を想定して避難訓練を実施しました。1階一番奥の部屋「11室」で火災発生です。車椅子の方もおり駐車場で待機する福祉車両に乗車までの間、スタッフ、ファミリーが一致団結して緊張感をもって避難している姿に感動を覚えました。

福祉車両の試乗を行い万全が確認できた事も感謝でした。

やはりどんな時にも笑顔ですね。避難場所での点呼確認が終了した時の皆さんの笑顔に安堵しました。

理事長　小原順子

全国のオリーブの家をご支援くださる皆様へ

先日、刑務所展に行ってきました。家具から日常小物まで沢山の品が展示してありその素晴らしい技に感動しました。この技術を生かせる場所、施設が整っていれば出所して長期もしくは一生の終の住処にできるのにと思いました。人は死ぬまで、人の役に立ちたい、人に喜んでもらいたい、と思っていると思います。その思いを持って帰ってきた人を支えるオリーブの家です。引き続きご支援宜しくお願いします。

理事　島田裕子

2023年1月～3月会計報告

		1月	2月	3月
月次自立準備支援人数		4名／7室	4名／7室	4名／7室
グループホーム利用者数		8名／8室	8名／8室	8名／8室
累計ファミリー数		148名	148名	148名
先月より繰越		4,854,025	5,351,748	5,043,262
収入	自立準備ホーム	660,236	700,336	600,592
	献金	746,000	956,660	769,000
	グループホーム	2,498,887	2,124,279	1,800,071
	その他	1,238,429	212,756	381,811
収入合計		5,143,552	3,994,031	3,551,474
支出	家賃	585,350	585,350	554,350
	水道光熱費	305,288	246,855	197,220
	食費	175,269	723,502	379,745
	人件費	2,918,132	2,063,605	2,036,231
	活動費	151,854	226,122	897,493
	その他経費	459,936	407,083	495,969
	施設準備積立金	50,000	50,000	50,000
支出合計		4,645,829	4,302,517	4,611,008
収支合計		497,723	-308,486	-1,059,534
施設準備積立金より取崩		0	0	0
翌月繰越現金預金		5,351,748	5,043,262	3,983,728

3/31時点：施設準備積立金残　3,200,067円

※　その他収入には、物価高騰支援金118,080円、活動費には、福祉車両800,000円が含まれています。

銀行振込

肥後銀行（銀行コード：**0182**）
京町支店（支店コード：**156**）
口座番号：（普通）**1574408**
口座名義：NPO法人オリーブの家
トクヒ）オリーブノイエ

郵便振替

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：**990**）
口座番号：**17180-5444801**
口座名称（漢字）：NPO法人オリーブの家
口座名称（カナ）：トクヒ）オリーブノイエ
（他銀行からお振込の場合は）
店名：七一八（読み：ナナイチハチ）
店番：**718**
口座番号：（普通）**0544480**

月刊オリーブ
2023年5月１日発行
(毎月1回発行)　第96号

編集・発行　ＮＰＯ法人「オリーブの家」
〒860-0082　熊本県熊本市西区池田２丁目９番１号コーポ池田201
TEL 096-342-4123　FAX 096-342-4248　E-mail 0110harvest@gmail.com
http://seishoforum.net/olive-house/about/